

# 2019年度淑徳大学卒業時調査報告

淑徳大学 高等教育研究開発センター

## 2019年度卒業時調査の目的

2019年度末の淑徳大学卒業生を対象に行い、「**本学の卒業認定・学位授与の方針**」や「**教育課程編成・実施の方針**」に基づいた教育や学修成果について評価するとともに、**今後の教育改善に資する事を目的として、3月に実施。**

# 卒業時調査の回収率

学部名	学科名	対象者	回答枚数	回収率
総合福祉学部	社会福祉学科	189	174	92.06%
	教育福祉学科	161	149	92.55%
	実践心理学科	104	91	87.50%
コミュニティ政策学部	コミュニティ政策学科	111	102	91.89%
看護栄養学部	看護学科	108	100	92.59%
	栄養学科	89	76	85.39%
経営学部	経営学科	78	64	82.05%
	観光経営学科	82	72	87.80%
教育学部	こども教育学科	98	93	94.90%
人文学部	表現学科	59	46	77.97%
	歴史学科	41	33	80.49%
不明			6	
大学全体		1120	1006	89.82%

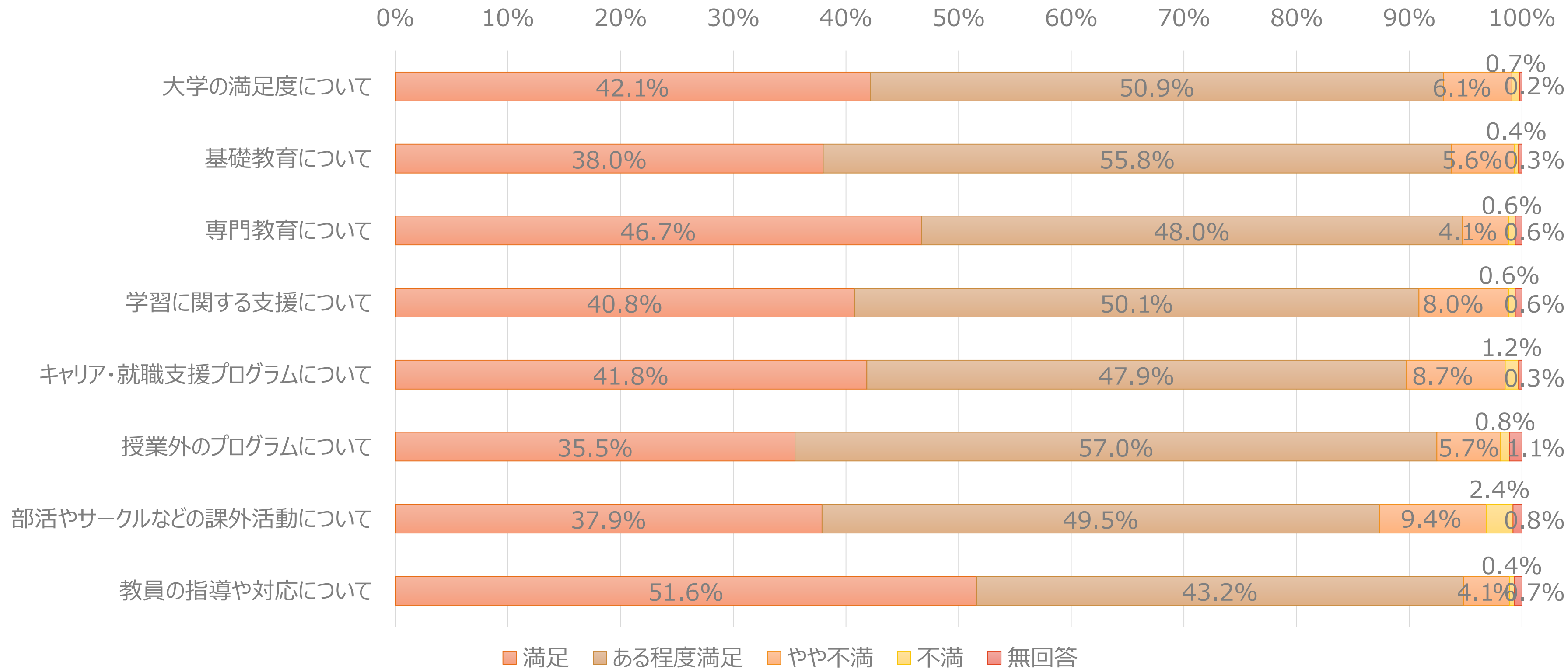
※学部並び順は同一キャンパスを優先している。

※学科欄にマークされていない回答であっても学籍番号及び氏名で確認できた場合は、該当学科に算入している。

# 大学の満足度について

	大学の満足度について	満足	ある程度満足	やや不満	全くそう 思わない
1	大学の満足度について	4	3	2	1
2	基礎教育について	4	3	2	1
3	専門教育について	4	3	2	1
4	学習に関する支援について	4	3	2	1
5	キャリア・就職支援プログラムについて	4	3	2	1
6	授業外のプログラムについて	4	3	2	1
7	部活やサークルなどの課外活動について	4	3	2	1
8	教員の指導や対応について	4	3	2	1

# 大学の満足度について（大学全体）

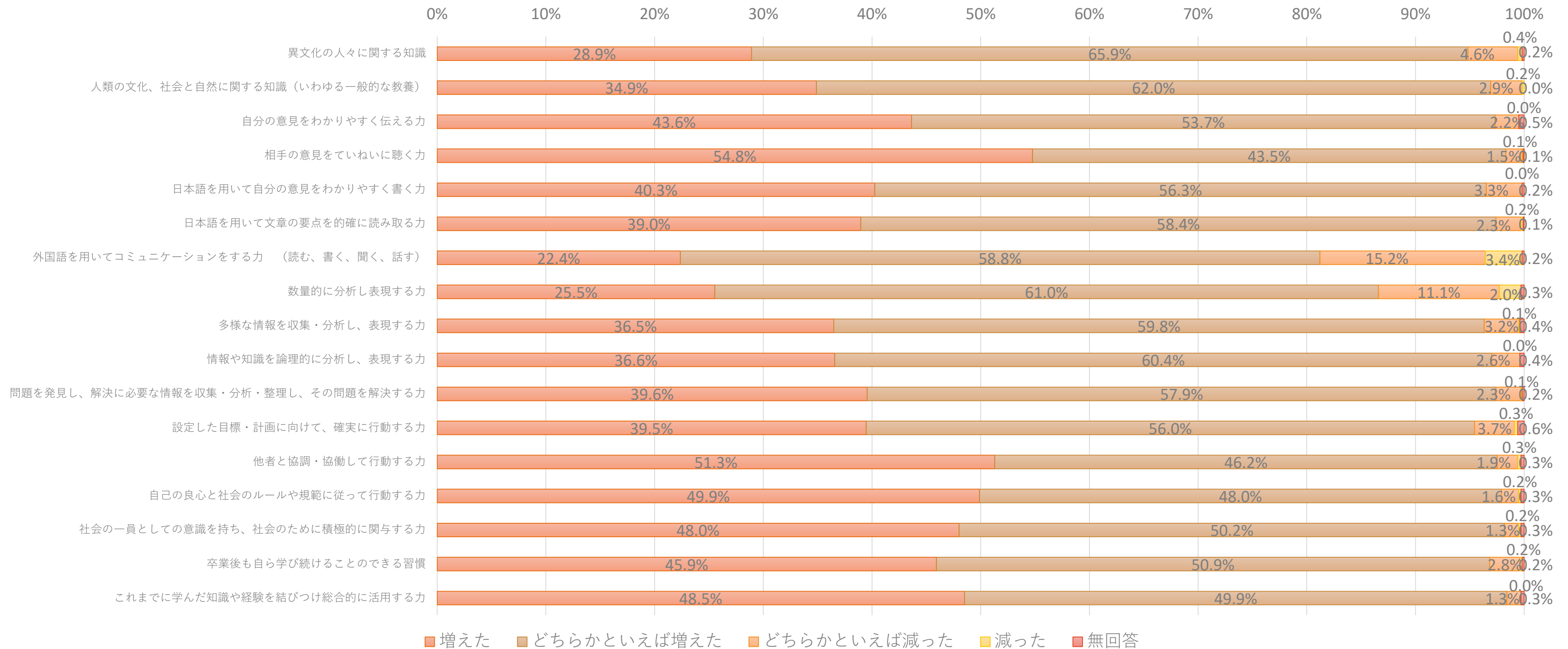


# 入学した時点と比べて、能力や知識はどのように変化したか

	入学した時点と比べた能力や知識	増えた	どちらかといえば増えた	どちらかといえば減った	減った
1	異文化の人々に関する知識	4	3	2	1
2	人類の文化、社会と自然に関する知識(いわゆる一般的な教養)	4	3	2	1
3	自分の意見をわかりやすく伝える力	4	3	2	1
4	相手の意見をていねいに聴く力	4	3	2	1
5	日本語を用いて自分の意見をわかりやすく書く力	4	3	2	1
6	日本語を用いて文章の要点を的確に読み取る力	4	3	2	1
7	外国語を用いてコミュニケーションをする力 (読む、書く、聞く、話す)	4	3	2	1
8	数量的に分析し表現する力	4	3	2	1
9	多様な情報を収集・分析し、表現する力	4	3	2	1
10	情報や知識を論理的に分析し、表現する力	4	3	2	1
11	問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を解決する力	4	3	2	1
12	設定した目標・計画に向けて、確実に行動する力	4	3	2	1
13	他者と協調・協働して行動する力	4	3	2	1
14	自己の良心と社会のルールや規範に従って行動する力	4	3	2	1
15	社会の一員としての意識を持ち、社会のために積極的に関与する力	4	3	2	1
16	卒業後も自ら学び続けることのできる習慣	4	3	2	1
17	これまでに学んだ知識や経験を結びつけ総合的に活用する力	4	3	2	1

# 入学した時点と比べて、能力や知識はどのように変化したか（大学全体）

能力や知識の変化について



# 2019年度卒業時調査結果の分析

## ○大学の満足度について

・総じて「満足・ある程度満足」の割合が9割を超え、卒業時における満足度は高い。特に2018年度の結果と同様に教員の指導や対応については満足度が高い傾向にある。

## ○入学時点と比較した能力や知識について

・英語や数量的な力以外は入学時と比較して9割以上は伸びたと感じている。またこの傾向は2018年度と同様である。

また能力や知識に関する設問は11月～12月に行った学修行動等調査と同じ内容で実施した。この調査の報告書の内容と見比べると次の事が見受けられる。

- ・いずれの設問も「満足 + ある程度満足」の割合が増えている。
- ・大学4年次で英語や数量的に分析し表現する力も上がっていることから、1年次から卒業後まで各学生の能力に関して詳細な分析をする必要がある。